

輸出事業計画

※申請者名：鹿児島県漁業協同組合連合会 品目：養殖ブリ類

1. 輸出における現状と課題

※本会は、「鹿児島湾養殖ブリ類輸出拡大協議会」の事務局を務め、鹿児島湾地区の各漁協と連携して輸出事業を展開している。

【養殖ブリ】1985年からアメリカを中心に輸出を開始し、その後は輸出先国および量ともに増えたことで2019年の輸出額は67億円に伸長。

課題

- ・天然種苗供給量が不安定
- ・大型魚が求められている
- ・生産コストが高く、上昇傾向
- ・販売国や地域はまだ限定的
- ・マーケットニーズが多様化
- ・加工場の老朽化やキャパ不足
- ・輸送ルートや便の確保
- ・輸送コストが高い
- ・認証への対応

【養殖カンパチ】1990年頃より輸出を開始。アメリカをはじめアジアおよび中東向けにも徐々に伸長中。2019年の輸出額は2億円。

課題

- ・種苗を天然輸入に依存している
- ・寄生虫対策
- ・生産コストが高く、上昇傾向
- ・海外市場では競合品が多い
- ・海外での認知度が低い
- ・認証への対応

2. 輸出事業計画の取組内容

【養殖ブリ】

- ・天然種苗の安定確保
- ・人工種苗の活用
- ・漁場の有効利用
- ・効率的な生産体制の構築
- ・生産コストの圧縮
- ・市場実態調査
- ・販売国や地域の開拓
- ・高次加工品の開発
- ・加工場の改修や更新
- ・輸送ルートや便の検討
- ・認証の取得
- ・展示会出展
- ・テスト輸出

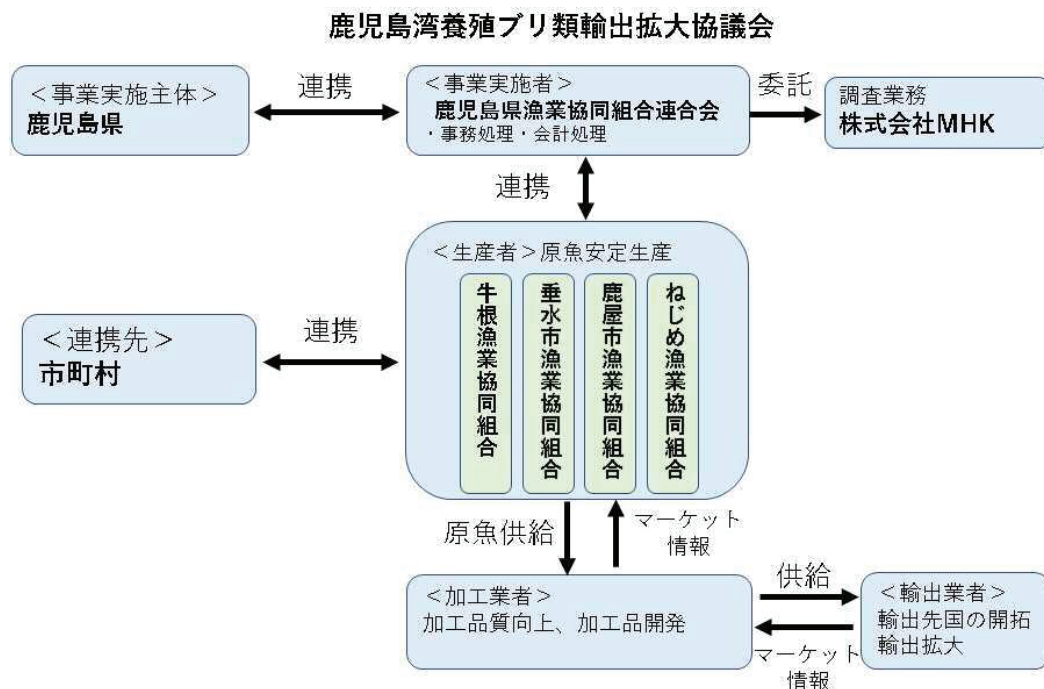
【養殖カンパチ】

- ・人工種苗の活用
- ・効果的・効率的な寄生虫対策の検討
- ・効率的な生産体制の構築
- ・大型サイズ生産体制の検討
- ・生産コストの圧縮
- ・市場実態調査
- ・販売国や地域の開拓
- ・競合種との差別化検討
- ・加工・輸送形態の検討
- ・認証取得
- ・展示会出展
- ・テスト輸出

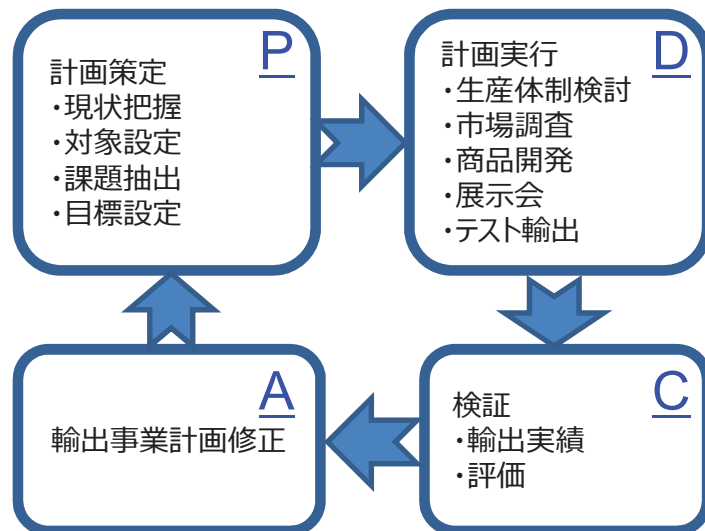
輸出事業計画

※申請者名：鹿児島県漁業協同組合連合会 品目：養殖ブリ類

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



PDCAは全て協議会で実施



4. 輸出目標額

輸出品目：養殖ブリ

輸出先国：アメリカ、カナダ、香港、シンガポール、UAE、ロシア、韓国、メキシコ

輸出目標：約96億円（令和6年度）

輸出品目：養殖カンパチ

輸出先国：アメリカ、カナダ、台湾、香港、シンガポール、ベトナム、タイ、UAE

輸出目標：約3.8億円（令和6年度）